



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

**UNU-IAS**

Institute for the Advanced Study  
of Sustainability

# SDGs : 理念から変革へ

慶應義塾大学大学院教授

国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー

蟹江憲史



持続可能な開発目標：2030年へ向けた世界の  
優先課題

2030年の  
世界目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

17目標  
169ターゲット  
232 (244) 指標  
の三重構造

世界の  
変革



だれ一人取り残さない

すべての国に普遍的に  
適用

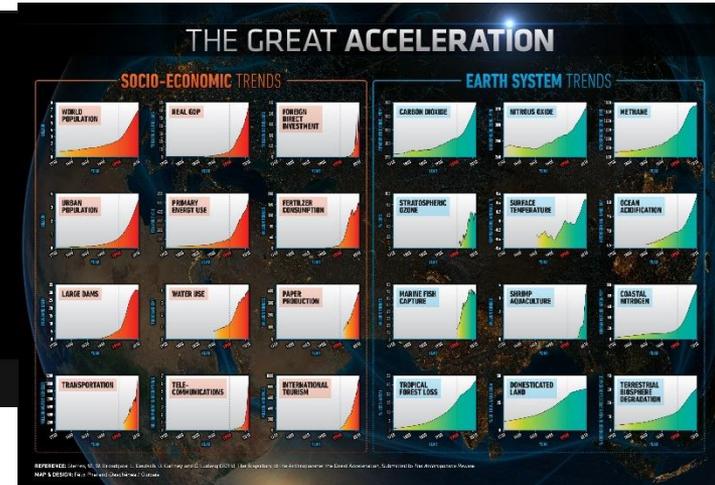
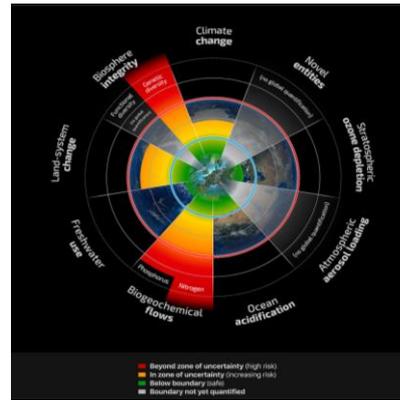
国内政策  
対外政策

進捗状況のモニタリングと  
評価（法的義務なし）

# SDGsの3つの背景

# 地球システムの限界

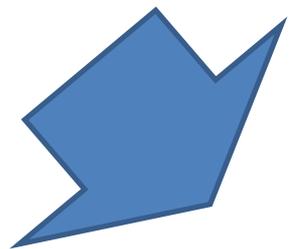
目標とターゲット	北	アジア	東	東南	アジア	南	西	オセアニア	ラテンアメリカ	中東	アフリカ
目標1 貧困の撲滅と豊かさの促進	高	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標2 飢餓の撲滅と食料・栄養の確保	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標3 健康と長寿の増進	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標4 質の高い教育をみんなに	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標5 男女の平等をすすめる	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標6 安全な水とトイレを世界中に	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標7 安全で持続可能なエネルギーをみんなに	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標8 働きがい、経済成長、雇用	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標9 産業、科学、技術イノベーションをすすめる	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標10 人や国ごとの格差をなくす	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標11 住み続けられるまちづくりを	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標12 持続可能な消費と生産	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標13 気候変動に具体的な対策を	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標14 海の豊かさを守ろう	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標15 陸の豊かさを守ろう	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標16 公正な裁判と法の支配	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
目標17 パートナーシップを世界に広げよう	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中



# 経済

# 環境

# 社会



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標



# 新たな社会現象や格差

# 新しいアプローチ 包括的な目標

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



課題が芋づる式につ  
ながってくる

資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

# 新しいしくみ

## 目標ベースのガバナンス⇔ルールベースのガバナンス

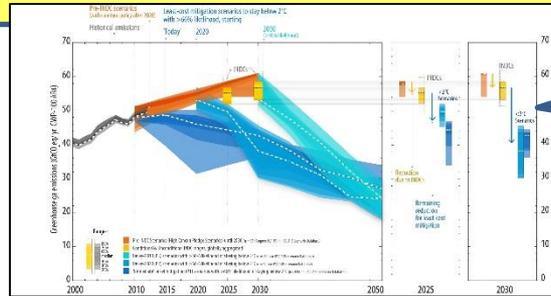
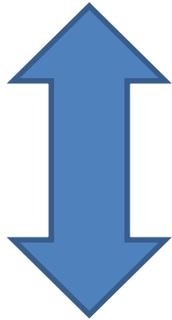
これまで  
主流

国際条約（例－気候変動枠組条約）  
⇒ 国際ルールをつくるガバナンス



→ できることの積み上げ式で  
必要なアクションがとれず（フォアキャストिंग）

SDGs



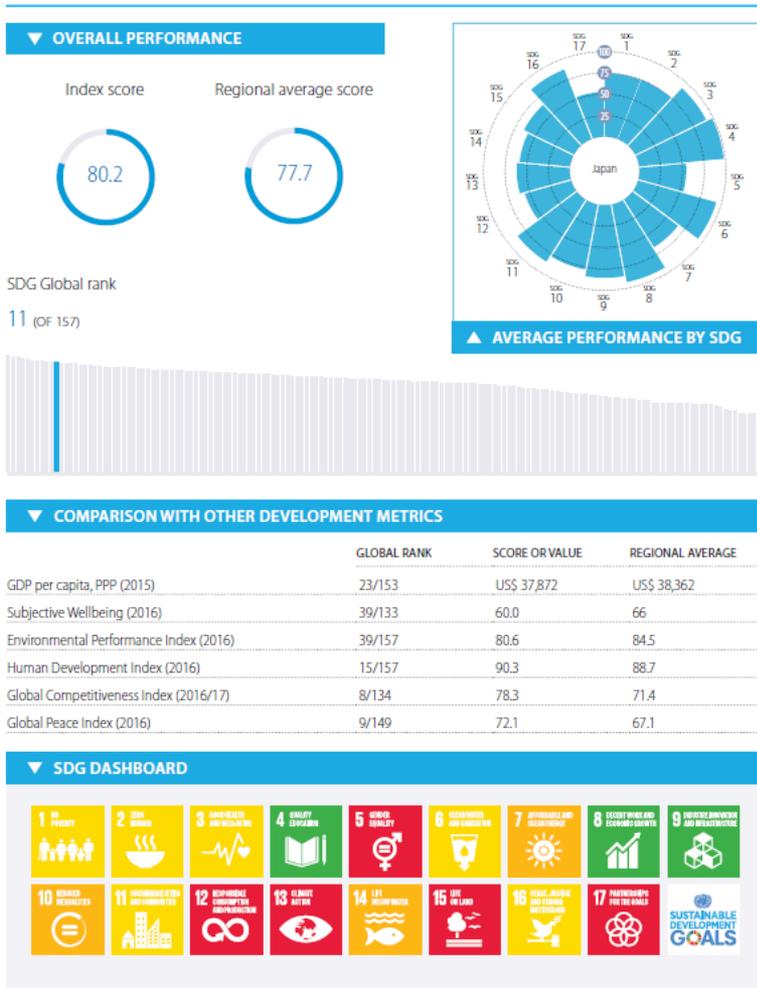
パリ協定実施でも  
脱炭素目標とは大きなギャップが！

- ❑ 野心レベルの提示からスタート（バックキャストिंग）
- ❑ 実施メカニズム・法的拘束力はなし（各主体が自由につくる）
- ❑ モニタリングと評価のみ

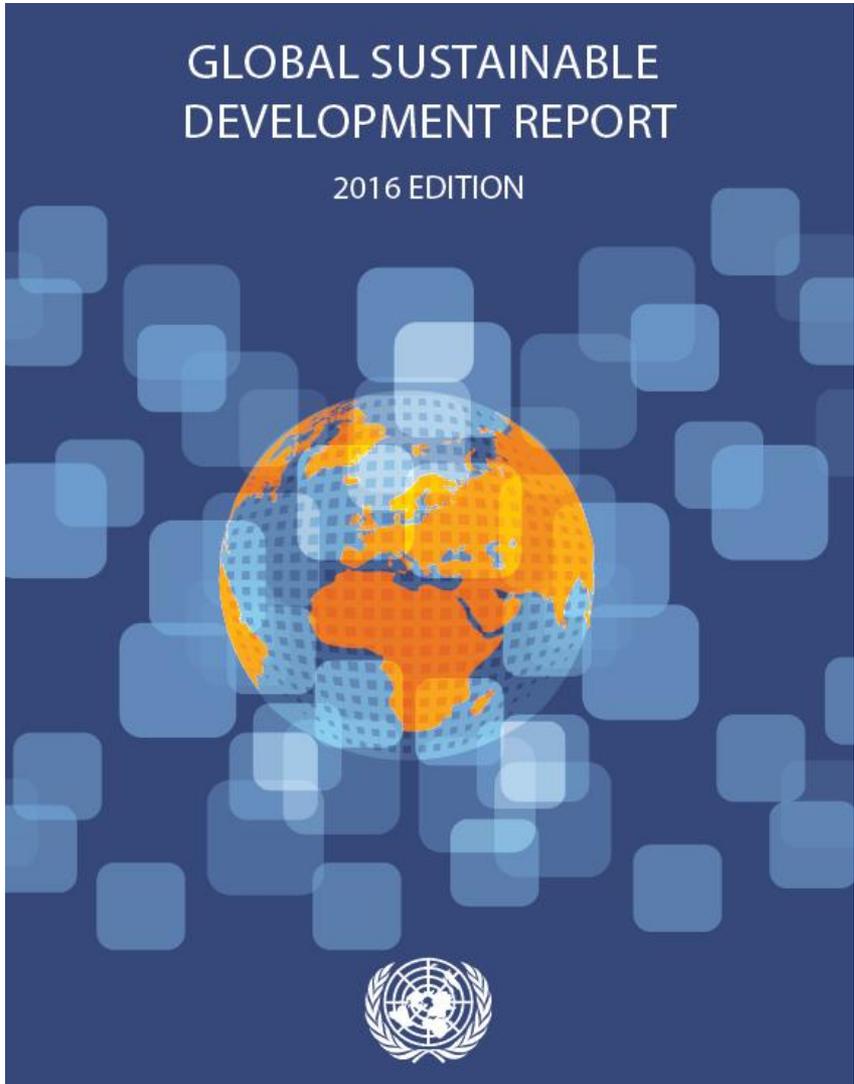


# 新しいものさし 未来基準で測る

## JAPAN OECD Countries



数字で測る（指標）



数字以外も測る

# SDGsを活用する意義

意義：多元主義的に活動を広げるツール

- 活動のLegitimacy（正当性）や公共性（への貢献）を示すことができる
  - 企業にとってのメリット
  - 持続不可能な活動に対抗するための「外圧」として利用できる
- SDGsは共通言語
  - 異なるステークホルダーとの協働・連携につながる（学界と社会の連携にも貢献の可能性）
  - 多様な国で、発展に持続的に貢献出来ることを示せる
  - 開発途上国の開発戦略への結びつけもやりやすくなる
- 課題相互間のリンクを示すことが出来る（課題の見える化）
- グローバル・長期の課題とローカル・短期のアクションを結びつける
  - 政策や活動の視点を広くする
- 同じ目標への活動を集めることで、スケールアップや連携を可能にする
  - 目標によるタグ付け、ベストプラクティスや課題の共有で連携を可能に
  - パートナーシップの創出
- ← 地球規模の課題への対応にはスケールアップが必要
- 「世界基準」での評価ができる
  - 投資などの評価基準に

# 自治体・企業とSDGsの可能性

1. 活動とSDGsとの紐付け、社会と企業との関連の明確化
  - 持続可能性に関する貢献、グローバルな貢献は思った以上に多い
  - 途上国等の開発計画との紐付け（マーケット拡大へ）
  - 認知度向上（社内・自治体・学校…）
2. 目標達成へのポジティブな活動・ネガティブな活動の明確化
  - ネガティブなインパクトを減らすための戦略・仕組み・技術の検討へ
  - 目標検討、進捗計測指標検討
3. 社内→業界→世界的（？）認証（or標準化）制度
  - SDGsサポーター制度／表彰制度 構築
  - 業界・自治体・国レベル・国際レベルでの標準化へ
4. SDGsリーディング自治体/カンパニーとしてのブランディング・宣伝効果
  - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー

2030年までにエネルギー、都市、食料、農業の各分野で、少なくとも想定GDPの10%に当たる12兆ドルのビジネスチャンスをもたらし、3.8億人の雇用を生む  
（“Better Business Better World” Business and Sustainable Development Commission（ユニバー・ポールポールマン氏らの委員会）、2017）